

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 17 日 (2008.1.17)

【公表番号】特表 2007-512931(P2007-512931A)
 【公表日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-019
 【出願番号】特願 2006-542899(P2006-542899)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 4 1 0 N

A 6 1 M 25/00 4 1 0 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 11 月 21 日 (2007.11.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

バルーンカテーテルであって、

近位端、遠位端、および該遠位端へ延びるバルーン膨張管腔を有するカテーテル本体；
 遠位端、該カテーテル本体の遠位端に直接取り付けられた近位端、および該遠位端と該近位端との間の拡張可能領域を有するバルーン；ならびに

該バルーン内に配置され、かつ近位端、遠位端、および該遠位端と該近位端との間のガイドワイヤ管腔を有するガイドワイヤチューブであって、該ガイドワイヤチューブの近位端は、該カテーテル本体の遠位端から遠位方向に間隔を空けて置かれる、ガイドワイヤチューブ、

を備える、バルーンカテーテル。

【請求項 2】

前記バルーン膨張管腔が、前記カテーテル本体の前記遠位端から前記近位端へ延び、そして前記バルーンが遠位ネック部分および近位ネック部分を有し、そして前記膨張可能領域が該ネック部分の間に存在し、該バルーンの近位ネック部分が、該カテーテル本体の遠位端の上に結合されるか、該カテーテル本体の遠位端の下で結合されるか、または該カテーテル本体の遠位端に突合せ接合される、請求項 1 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 3】

前記ガイドワイヤチューブの遠位端が、前記バルーンの遠位端を越えて遠位方向に延び、該ガイドワイヤチューブの遠位端が、該バルーンの拡張可能領域の遠位端から、該ガイドワイヤチューブの近位端と該バルーンの拡張可能領域の近位端との間の距離よりも大きい距離だけ、遠位方向に間隔を置かれた、請求項 1 または 2 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 4】

前記ガイドワイヤチューブの遠位端が、前記バルーンの拡張可能領域の遠位端から少なくとも 1 c m にあり、そして該ガイドワイヤチューブの近位端が、該バルーンの拡張可能領域の近位端から 1 c m 以下にあり、遠位拡張可能領域と近位拡張可能領域との間の該バルーンの長さが、1 c m ~ 5 c m である、請求項 3 に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 5】

前記ガイドワイヤチューブの近位端が、前記バルーンの拡張可能領域を通して開口する、

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 6】

前記ガイドワイヤチューブの近位端が、前記カテーテル本体の近位端から遠位の位置で、前記バルーンの近位ネック部分を通して開口し、該ガイドワイヤチューブの近位端が、前記カテーテル本体の膨張管腔からの膨張媒体が、該ガイドワイヤチューブを通過し得、そして該バルーンの拡張可能領域に入り得るように、前記バルーンの近位部分内に配置される、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 7】

前記カテーテル本体のいずれの部分も、前記ガイドワイヤチューブのいずれの部分とも軸方向に重ならず、そして該カテーテル本体と該ガイドワイヤチューブとの間の隙間が少なくとも 1 mm である、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 8】

前記バルーンを覆うスコアリング構造をさらに備える、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載のバルーンカテーテル。

【請求項 9】

カテーテル本体および該カテーテル本体の遠位端の介入要素または診断要素を備えるタイプの改良されたカテーテルであって、該改良は該介入要素を貫通するガイドワイヤチューブを包含し、ここで該ガイドワイヤチューブは、該カテーテル本体の遠位端から遠位方向に、該介入要素からの該ガイドワイヤチューブの遠位端の距離よりも小さい距離だけ間隔を置かれた近位端を有する、改良されたカテーテル。

【請求項 10】

前記介入要素または診断要素が、バルーン、機械的拡張可能要素、超音波トランスデューサ、放射線源、熱源、低温源、薬物放出機構、アテローム切除素子、熱感知器、および光干渉断層法 (OCT) 素子からなる群より選択される、請求項 9 に記載の改良されたカテーテル。